

本展の見どころ

●絵本や書籍の原画の魅力の間近で堪能

1990年に『MELODY』を発表して以来、100冊以上の絵本・書籍を手掛けてきた荒井良二。本展では、そのなかから『あさになったのでまどをあけますよ』や『きょうはそらにまるいつき』など代表的な作品の原画をご紹介します。原画でしかみられない発光するような色や作品の中にいきる人々、いきものなど様々なモチーフの間近でご覧いただけます。また、26歳のとき(1982年)に描かれた未発表の作品《みち》の原本も展示されます。



『あさになったのでまどをあけますよ』原画 2011年
©Arai Ryoji

●絵本だけではなく、絵画や立体作品による荒井良二の世界

荒井良二にとって、創作の場は絵本だけではなくありません。これまでも絵画の展示や、郷里山形を舞台にした「荒井良二の山形じゃあにい」、「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」の芸術監督、震災後の東北を巡る活動など、ジャンルを超えた創作を行っています。本展では過去作から最新作まで、絵画や「山形ビエンナーレ 2018」で発表された屋台のような立体物、愛蔵のガラクタなどを荒井自身が再構成し、旅するような気分で日々作品を生み出してきた荒井良二の創作活動を紹介します。

●新作インスタレーションと千葉会場だけの特別な展示

本展のための新作の立体インスタレーション《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す》は、2010年に発表した絵画《逃げる子どもI》を再構成し、立体化したものです。展示室に点在する小さな家々にはそれぞれ子どもがおもい物語を内包しながら旅をしていきます。子どもたちはどういう状況でどういう気持ちで移動しようとしているのか、想像しながらご覧ください。また、ドローイングを用いた千葉市美術館のためだけの新たな展示も登場、会場ごとに変わる展覧会をお楽しみください。



《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す》より 2023年 ©Arai Ryoji 撮影:池田晶紀

荒井良二プロフィール



撮影:池田晶紀

1956年山形県生まれ。『たいようオルガン』でJBBY賞を、『あさになったのでまどをあけますよ』で産経児童出版文化賞・大賞を、『きょうはそらにまるいつき』で日本絵本賞大賞を受賞するほか、2005年にはアジアで初めてアストリッド・リンドグリーン記念文学賞を受賞するなど国内外で高い評価を得る。2012年NHK連続テレビ小説「純と愛」のオープニングイラストを担当。ライブペインティングやワークショップのほか、作詞・作曲やギターも演奏するなど音楽活動も行っている。2018年まで「みちのおくの芸術祭山形ビエンナーレ」の芸術監督を務め、さらにその活動の幅を広げている。



《誰も知らない山の神さまちゃん》2018年
©Arai Ryoji

短文テキスト例

広告記事などを掲載される際にご使用いただけるテキスト例です。

■ 100字

旅をするような気分で日々作品を生み出してきたアーティスト・荒井良二のジャンルを問わない多彩な表現を、絵本原画、新作インスタレーション、絵画、立体作品から私蔵のガラクタまで約300点を織り交ぜて紹介する。

■ 50字

荒井良二のジャンルを問わない多彩な表現を、絵本原画や新作インスタレーション等約300点で紹介。

■ 20字

絵本作家荒井良二の新作や絵本原画等約300点



《絵の中のぼくとぼくの中の絵》2023年
©Arai Ryoji

■ 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。
ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。
画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1 《名前の知らないわたしと誰かが聞いている》
2023年 ©Arai Ryoji



2 《new born 旅する名前のない家たちを
ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く
水を汲み出す》より 2023年
©Arai Ryoji 撮影:池田晶紀



3 《誰も知らない山の神さまちゃん》2018年
©Arai Ryoji



4 『あさになったのでまどをあけますよ』原画 2011年 ©Arai Ryoji



5 『POSTじゃあにい』『いったことのないたびにでよう』原画
2020年 ©Arai Ryoji



6 《逃げる子どもI》2010年 ©Arai Ryoji



7 《絵の中のぼくとぼくの中の絵》2023年
©Arai Ryoji



8 (荒井良二ポートレート) 撮影:池田晶紀

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1申込について1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行
FAX：043-221-2316
E-mail：isono@ccma-net.jp

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

- 1 荒井良二《名前の知らないわたしと誰かが聞いている》2023年 ©Arai Ryoji
- 2 荒井良二《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す》より 2023年 ©Arai Ryoji 撮影：池田晶紀
- 3 荒井良二《誰も知らない山の神さまちゃん》2018年 ©Arai Ryoji
- 4 荒井良二『あさになったので まどをあけますよ』原画 2011年 ©Arai Ryoji
- 5 荒井良二『POSTじゃあにい』『いったことのないたびにでよう』原画 2020年 ©Arai Ryoji
- 6 荒井良二《逃げる子ども I》2010年 ©Arai Ryoji
- 7 荒井良二《絵の中のぼくとぼくの中の絵》2023年 ©Arai Ryoji
- 8 （荒井良二ポートレート） 撮影：池田晶紀

■「new born 荒井良二」
プレゼント用招待券申込
(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組10名様分 希望します。
(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先
ご住所：〒

問い合わせ先
千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8
広報担当：磯野 愛
Tel. 043-221-2311（代表）/043-221-2313（直通）
Fax. 043-221-2316
E-mail isono@ccma-net.jp
HP <https://www.ccma-net.jp/>

new born

荒井良二 いっしょに知らないところへ
たびたびするきぶんだった

new born / ARAI RYOJI
—ENDLESS UNKNOWN JOURNEY SENSATION—

記者レクチャー・内覧会 10月3日(火) 15:00～18:00 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。
展示会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。
当日は出品作家の荒井良二氏も来場予定です。

[タイムスケジュール(予定)]

14:30～ 記者レクチャー会場へのエレベーター稼働・開場
15:00～ 担当学芸員より会場にてご説明
15:20～ 自由内覧

参加ご希望の方は下記項目にご記入の上、

FAX: 043-221-2316 または **E-mail: isono@ccma-net.jp**

までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail
